

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スターキッズ		
○保護者評価実施期間	2025年1月30日		～ 2025年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童のニーズに合わせた療育	フィードバックやモニタリングの際に直接家庭や学校での様子を聞き取ると共にHUGを通じて共有や情報提供を受けることで児童のその時の状態に応じた適切な対応や活動内容の提供に繋げている。職員ミーティングを行うことで支援内容のすり合わせを行うことで様々な活動を提供できるようにしている。	戸外活動や他事業所との交流について、土曜・祝日・長期休暇の際に行ってはいるが、十分な回数実施できていないことから、児童によって戸外活動の経験数に差がある為、様々な曜日に実施したり、短距離・長距離の戸外活動を組み合わせつつ、より提供内容を充実させていく。
2	児童の様子についての共有	モニタリング時だけでなく日々のフィードバックやHUGでの提供内容の公開を行うことで共有を行っている。学校での様子についても聞き取ったり、情報提供を得たりすることで児童の様子について共有し、家庭と教室で一貫した支援になるようにしている。	療育後のフィードバックについては時間が限られている為、必要に応じて家族支援や相談支援の場を提案していくことで、職員が児童や保護者と並走して支援するよう努めていく。
3	姉妹教室間での交流	夏祭りやクリスマスコンサートなどの全教室が参加する大きな行事だけでなく、近隣の教室同士で合同療育を行うことで児童が様々な人と関わる機会を設けると共に教室内のみでは得られない経験を得ることに繋がっている。	姉妹教室間同士での交流や療育後の振り返りについて、互いの職員間で行うことで、児童への関わり方について新たな視点を獲得の機会にし、普段の療育により活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練等の災害時の対応についての周知	児童と共に訓練を実施しており、訓練の様子をSNSで発信することは行っている。しかし、保護者へ十分な周知が行えていない。	緊急時の引き渡し訓練など、無理のない範囲で保護者の方も参加していただく機会を設けることで災害時の対応について知っていただけるよう努める。
2	「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」の充実	学校での様子については保護者や送迎時の対応職員を通じて情報提供を受けているが、学校との直接連携や支援の場については十分に設けられていない。	個別支援計画の見直しなどに合わせて、連携の場が設けられるよう学校との連絡を今までより密に行う。また、児童の成長や発達に伴って地域支援を活用すると考えられる為、地域支援に関する情報を常に把握することで地域連携に繋げていく。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行う等の保護者支援のさらなる充実	保護者が就労していることやそれに伴って送迎を利用していることから保護者と直接やり取りする機会が少ない場合もあり、教室での様子を目にする機会が少ないという現状がある。	保護者も参加できるイベントの実施や写真、動画などの実際の様子が視覚的に分かる記録残すことで、教室での児童の様子が伝わるようにする。随時見学を行っていることも周知し様子を見ていただく機会を増やすことで児童との関わり方について共有したり情報交換をしたりする場を設ける。